

全国医療ソーシャルワーカー協会会長会 第29回会議 議事録

日時：2022年11月27日（日）13:00～16:20

会場：オンライン開催（Zoom）

司会：会長会副代表／新潟県医療ソーシャルワーカー協会 会長 坂詰 明広

議事録：外山（事務局）

参加者：45協会／62名

議事：

1. 開会挨拶

会長会代表／（一社）静岡県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中村 敬より

2. 全体報告

①人材育成について（資料別紙）

会長会副代表／（NPO）大阪医療ソーシャルワーカー協会 代表理事 藤田 譲

人材育成における今の課題、ソーシャルワークの人材育成の特徴からみる取り組みについて、わかりやすく整理し、資料に基づき、以下のトピックを報告された。（1）学習対象としてのソーシャルワーク。「個別の判断」が求められ、成果は「状況に左右」され、「役割の曖昧さ」をともなうところに難しさがある。（2）初任者にせよ管理者にせよ、学ぶためには「アンラーニング」が必要。（3）「できない自分」とどう向き合うか。特に初任者段階では、失敗が付き物だけに、失敗との向き合い方を間違えることが退職につながっていくのかもしれない。（4）その他、業務マニュアル作成・キャリアラダーの活用、さらに「管理者、スーパーバイザーへの支援」「養成課程からの継続性」も考慮したいポイント。「ゲーミフィケーション」が導入できれば、これらも楽しく学べるようになる可能性がある。

また参考文献を併せて紹介された。

参考資料

『働く人のための「学び」の教科書』

<https://kanki-pub.co.jp/pub/book/details/9784761273125>

『プレイフル・シンキング [決定版]』

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000286.000002888.html>

『Unlearn 人生100年時代の新しい「学び」』

<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/22/S00530/>

②地域から求められる職能団体の役割りについて（資料別紙）

会長会副代表／（一社）北海道医療ソーシャルワーカー協会 会長 木川 幸一

職能団体の歴史を確認し、全国組織創設に関連した医療社会事業従事者講習会が北海道協会の創設にも関連があると改めてわかった。研修が重要であると認識し、また研修機会やポイント習得だけでなく、会員サービスや技術開発、普及啓発や協会としての社会貢献やアドボカシーで価値を示していくことも重要と認識した。地域で起きている課題を提起し、解決するための枠組み作りや、見逃された課題の発掘も重要で、機能を果たしていく為の協会の役割を改めて考えている。

会員増に会員の関心も大事だが、地域の課題に取り組むために、やらなければならないこともあるのではないかと。会長の責務は、重くプレッシャーがあるが、会長会の繋がりやディスカッションは参考になることを得られる機会と思っている。

③基礎調査結果の報告について（資料別紙）

会長会事務局／（公社）日本医療ソーシャルワーカー協会 組織運営部 外山 史教（事務局）

日本協会・都道府県協会の組織情報を定期的に収集し、相互に把握し、各団体の組織運営や、関係団体等の協議に使用する参考資料とすることを目的とし、毎年7月に実施することを提案した。実施主体は日本協会、対象は、日本協会・都道府県協会である。あくまで組織を調査対象としており、会員個人ではない。

2022年度は、回収率89.6%であった。調査内容のうち、会議では、法人化の状況、資格取得把握のうちの社会福祉士取得割合、日本協会加入状況の把握、オンライン研修の実施状況、専用事務所や職員の雇用、法務系等の業務委託状況、行政会議への参加・派遣実績について報告した。更に詳細な調査結果資料は、2022報告書を参考にされたい。

今後も定期的に実施する為、協力をお願いした。

④全国動向の解説及び日本協会と都道府県協会の協力案件について（別紙）

会長会副代表／（公社）日本医療ソーシャルワーカー協会 会長 野口 百香

全国レベルの動向について、まず、厚労省や内閣府からの要請に基づく委員の選出、活動への参加について報告があった。厚労省医政局への研修生は、公募し10年続いている。意欲のある方は、ぜひ応募してほしい。

健康局では、がん対策推進協議会、がん診療連携拠点病院指定要件に関するワーキンググループ、循環器病対策推進協議会に委員を選出し、国の政策を検討する会議に参加している。国で決まったことを、各都道府県で委員を募り、実施に向けた取り組みが検討されており、そこに各都道府県協会が関わっている。日本脳卒中医療ケア従事者連合では、各地域で専門職のプラットフォームを作る動きが始まっている。全国レベルだけでなく、地域単位ですすめられている。国の動きは、各都道府県に通じるものであり、全国レベルでの会議体への参加だけでなく、動かすのは、各都道府県及び自治体であり、国と地方が一体的に繋がる活動にしていきたい。

子ども家庭局では、子ども家庭福祉にかかる新しい認定資格に関する検討がなされている。またヤングケアラーに関する調査検討会にも参加している。労働基準局では、治療と仕事の両立支援に関するマニュアル作成委員会に参加している。こちらは既に都道府県で会議体が機能していると思う。

また厚労省ではないが、内閣府では、アルコール健康障害対策関係者会議にも参加している。次に、日本協会の中期事業計画について報告したい。資料を参照されたい。基盤整備、ソーシャルワークの推進、専門性の向上、これら3点を2025年度までに推進したい事業としている。

都道府県協会との関連で言うと、組織体制の整備が重要で、全都道府県協会との連携強化は極めて重要と認識している。ソーシャルワークの推進のためにも協働事業などの検討や団体統合を将来的には見据えていきたい。協会それぞれの考えや組織の特徴の違いはあると思うが、大きな目標として捉えてほしい。全国組織としての他のソーシャルワーカー団体との統合についても議論がされている。質の向上では、近隣ブロック等との研修の協働開催などの取り組みを検討していきたいと考えている。

事業計画の実行として、基礎調査によってそれぞれの組織の特徴を相互に把握することに繋がり、また各都道府県協会の研修情報を共有するための仕組みづくりなどに取り組んだ。

日本社会福祉士会との事務所の統合について、課題は様々ではあるが、検討していることも報告する。他のソーシャルワーカー団体との協働企画を全国大会で開催した。併せて研修などの相互乗り入れや認定事業の推進に取り組んでいる。

3. グループディスカッション

テーマ ①会員新規確保と維持・組織（協会）運営

②人材育成

③地域から求められる職能団体の役割

報告 ①1回目 中本会長（高知）

組織強化にはどこも苦勞をしている。栃木は2年間で100名から150名に増えた。

会長が2か月に1回無料で講演をし、協会のメリットを伝え、非会員も研修を無料とした。

ここ5～10年は会員数横ばいで、研修参加や取組み参加をする会員は減少傾向。

①2回目 當銘副会長（沖縄）

研修だけでは会員を増やすのは難しいのが現状。ソーシャルアクションをどう見せていくか。理事とかをしている先輩がいると入会しやすい。近所の病院にじかに足を運んで声をかけることで入会に繋がっている例もある。

②1回目 本田会長（福島）

新人が入っても辞めてしまう。2～3年で結婚して辞めてしまう。

キャリアラダーがあるといいという意見が出た。押し付けにならないように取り組む。

ソーシャルワーカーとしての成長と病院の求める業務のギャップがある。

②2回目 大森事務局長（徳島）

委員会の取組みや地域で分けられているブロックに取り組んでいる。地域貢献が目的であること。ぶれないでやることが大切。昔は協会に助けられたが、今の若い人は協会に求める事がないのでは。時代に合わせて変わっていかなければならない。魅力を発信していく。

③1回目 新野副会長（新潟）

法人格のある・なしでメリット・デメリットがある。地域に貢献できているかは精査できていない。先輩のお陰か法人格があるからかわからないが、法人格があると個人に責任が行かない。個人に限界はあるため領域で分けて取組み、地域に貢献したい。

③2回目 梶原副会長（佐賀）

地域の行政機関から協議会等に呼ばれ、市町村や医師会から医療介護連携の委員に呼ばれる協会がある中で、認知度が低く呼ばれない協会もある。呼ばれるかどうかではなく求められる地域活動を行うことが大事。調査から始めるとか人材育成も地域活動。

各グループのディスカッション記録は、会長会事務局に送付する。

4. 各ブロックミーティング

1 北海道・東北ブロック、2 関東ブロック、3 北信越ブロック、4 東海ブロック、5 近畿ブロック

6 中国ブロック、7 四国ブロック、8 九州・沖縄ブロック

に分かれてミーティングを行う。

5. 次回全国大会について

会長会副代表／（一社）東京都医療ソーシャルワーカー協会 会長 平田 和広より

第 71 回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会／

第 43 回日本医療社会事業学会（東京大会）の開催について案内

社会変動の中の医療ソーシャルワーカー 支援者としてかけがえのない存在であり続けるために

日 程：2023 年 6 月 17 日（土）～6 月 18 日（日）

開催会場：TFT ホール（東京都江東区有明）

TFTビル・オンラインによるハイブリッド開催。ホームページが開設されたのでみてほしい。各都道府県協会のホームページともリンクを張ってほしい。2 会場を予定しており、直接参加による双方向の学会を、コロナの状況下で難しい方は、オンラインで参加できるよう検討している。長く感染対応が続く中で、東京に来ていただく折には、学び楽しんでもらえるようにしたい。現地での一体感、熱量を感じてほしい。できれば懇親会も開催したいと思う。

和歌山医療社会事業協会 会長 西田 紀子より 第 70 回全国大会の謝辞

ハイブリッドの開催もでき、和歌山協会の会員からは全国の MSW とのつながりを感じ、取組みに触れて沢山刺激を受けた。会員もやって良かったと。来年東京で会いましょう。

（一社）大分県医療ソーシャルワーカー協会 会長 脇坂 健司より 第 72 回進捗報告・案内

実行委員会を立ち上げ始めたところ。2024 年に東京からバトンを引き継ぐ。九州で久しぶりの開催になる。実行委員会を立ち上げ、会場を検討している。温泉地であり、学びと癒しの大会になるよう、是非参加してほしい。

2025 年全国大会は募集中。年明けまで募集。

6. 閉会の挨拶

会長会副代表／（一社）福岡県医療ソーシャルワーカー協会 会長 浦川 雅広より

7. 事務連絡

この後、Zoom での懇親会を予定している。